

3月議会とこれから

●三月定例議会では、問責決議を受けました。表面的にはビデオをまわしたことが対象となっていました。事のおこりはホームページへの議事内容掲載のようです。私は議会を身近に感じたい。議事内容をメモや速記にしていたものや日々感じたことをホームページに掲載しています。他自治体ではケーブルテレビで議会が開かれている現状。せめても手段だと思わなければならない。どう思いますか。

●慶応のセンターができませんが、本当にみなさんは「ウエルカム」の状態ですか。私をもっと説明が必要と感じています。

●13年度はIT化の予算が目立つが庁内横断型で民間企業や市民を交え、戦略会議を立ちあげ、ビジョンを描いて戦略を立てるべきと討論で申し入れしました。

●大山下池付近に、今冬ハクガンがきました。カモや天然記念物オオヒシクイの飛来地としても重要な湿地としてラムサール条約指定の話もできています。

●「広域水道」の問題は、「週刊金曜日」や「朝日新聞」、NHKなどで取り上げられ、これからは全国的な視野の中で取り組めます。草島、今後は、より地域の諸問題にしっかりと取り組んでいきたいと考えています。なんでも相談ください。問題解決に私をぜひ使ってください。と思います。いろいろ勉強をさせていただきます。

INFORMATION 情報掲示板 Think globally Act locally

- 4月9日 1時30分～ 水道料金協議会 どなたでも傍聴可能です。 市役所三階の予定
- 4月21日(土) アースデイワークショップ
三瀬のつるおかユースホステルにて。午後3時～
→庄内の自然・環境問題を徹底トーク。 C.W.ニコルさんが実行委員長のアースデイ東京とリンクして、庄内のナチュラルリストが集合！ 参加者全員で21世紀に残したい庄内の自然や環境問題を徹底的に語りあかしましょう。参加費資料代 千円。宿泊の方は4500円(夜・朝飯込み 消費税別)
CALL 73-3205 つるおかユースホステル 庄内アースデイ実行委員会
- 4月22日(日) アースデイ ピーチクリーンアップ
午前9時 湯野浜海水浴場 ホテル海山前集合
→ 海岸漂着ゴミ調査をしながら浜辺をクリーンアップ。親子連れ大歓迎！ 参加無料です。
- 5月からカヌーを使って赤川、内川、最上川を下る芭蕉トレック開講。
小学生から成人までクラブ員も大募集。ぜひお問い合わせを。
- 第三回 月山炎のまつり スタッフ大募集。8月13日14日のお盆。羽黒山川代の月山高原牧場で現代音楽(テクノ・トランス・民族楽器)で踊り明かす現代の神事、全国各地から来るクリエイターとともに創作する手作りのまつりです。エネルギー高まりますよ！Welcome!

BOOK レビュー 必読書のご紹介

- 「カタクリ」太田威 平凡社 今が旬！の貴重なカタクリの生態の美しい写真集
- 「ダムと日本」天野礼子 岩波新書 なぜ「ダムがダメ」かがよくわかる。草島も登場
- 「公共事業は止まるか」五十嵐敬喜 小川明雄 編 岩波新書 公共事業シリーズ第3弾！

メール、手紙、FAXで、ご意見をお寄せください。

- あと半年あまりしか使えない地下水100% 鶴岡の水への思い
- 鶴岡市政への疑問点 ●今回の「パドル」で感じたこと。

ハートビートセンター 電話 28-3338 FAX 28-3009
Eメール stern@jca.apc.org 住所 〒997-0034 鶴岡市本町1-5-13

●鶴岡銀座通りしあわせ銀行向かい

ウォーターワッチHP <http://www.jca.apc.org/water-w/>
広域水道110番HP <http://www.suido.org>

◎ハートビートセンターでは、自然保護、環境関係の書籍、議会資料の閲覧、炎のまつり出演者関係の癒し系CDなどの視聴。VTR上映もできます。どうぞ気軽にお立ち寄りください。悩み相談もどうぞ
◎ホームページは2万アクセス突破！議会日記はほぼ毎日更新！今後も増強してがんばります。

21世紀。政治にまごころをとりもどそう！鶴岡の自然を未来へ！

どうも草島です。昨年末の住民投票条例案の直接請求署名、ご協力ありがとうございました。さて、今回から「地球の声通信」は、愛称を「パドル」としました。パドルとはカヌーを漕ぐ糧の事。鶴岡号も宇宙船地球号も10万人みんなのパドルで動かしたいものです。

21世紀、行政も企業も、市民の声に目を向け、未来の公益を考える「まごころ」をとりもどす時代の幕開け。

時代は、21世紀に突入しました。経済は、デフレ傾向のまま。そして、田中角栄の時代から進化したくない政治財癒着、利権構造の不透明な自民党政権の中、「KSD事件」「機密費ネコババ事件」おまけに度重なる首相の問題行動と、「国はいつたい何をやっているのか」と政治不信は募るばかりではないでしょうか。鶴岡の政治も水問題ばかり、同様の不信感も耳にします。

しかし、そう思ってもなかなか国の改革は成し遂げられない。そこで今、「地方から変える」動きが活発化しています。昨冬、「ガラス張りの県政」を訴えて田中康夫長野県知事が誕生し、3月には堂本千葉県知事が誕生しました。田中知事は2月に百年、二百年先の我々の子孫に残す資産としての河川・湖沼の価値を重視したい。長期的な視点に立てば、コンクリートのダムを造るべきではない。という「脱ダム宣言」をおこないました。「日本中の川にすでに二千七百もあるダムはまさに土建国家の癒着システムの象徴であり、ここから抜けださねば経済的にも、環境面でも将来的な破綻が目に見えている」(五十嵐敬喜氏)と指摘されている中の英断と私は思います。ダム先進国アメリカです。四六〇ものダムが撤去されている世界の潮流

からすれば当然の事であると思うのです。政治不信、財政難の中、市が心を取りもどすにはいつたい何をすればいいか。

私は、シビルサーバント(公僕)である行政はまず市民の声にもっと耳を傾け、行政情報を市民にもっともっと開き共有化し、「あれかこれか」の選択、予算で最大限の効果をあげる努力を市民と一体となっておこなわなければならぬ。そして、地域の財産を点検し直し、未来の世代に何を手渡すべきかを徹底議論しながら、10万市民みんなで「いいまちをつくる」チャレンジする姿勢が必要だと感じています。

この2年間にわたって、水問題を通じ「開かれた行政」「市民参画」の必要性を論じてきたつもりですが、今、活気がある町はすべてそれがあるのです。鶴岡はまだだと感じています。市民と行政のホンネのパートナーシップが築けるまちづくりを実現するため、行政には一歩踏み込んだ情報提供が必要。そしてみなさんのまごころへの積極的な参加に期待しています。

私はそうした「まごころ通う」開かれたシステムづくりに邁進していきたいと思えます。また、子供達の未来。百年後の事を考えればやはり、鶴岡、庄内の自然保護・環境政策は21世紀の政策の要です。これは最近その多面的機能が見直されている農業政策とともに、みなさんと共に「鶴岡モデル」を作っていきたいと思えます。さあ、みんなでチャレンジの21世紀を！

草島進一 議会報告

パドル

paddle

地球の声通信第4号 21世紀大特集

編集・発行

草島進一政策研究会『地球の声・鶴岡』
鶴岡市本町1-5-13 TEL 28-3338 FAX 28-3009
<http://www.jca.ax.apc.org/water-w/>